

しょうらくじいせき

正楽寺遺跡

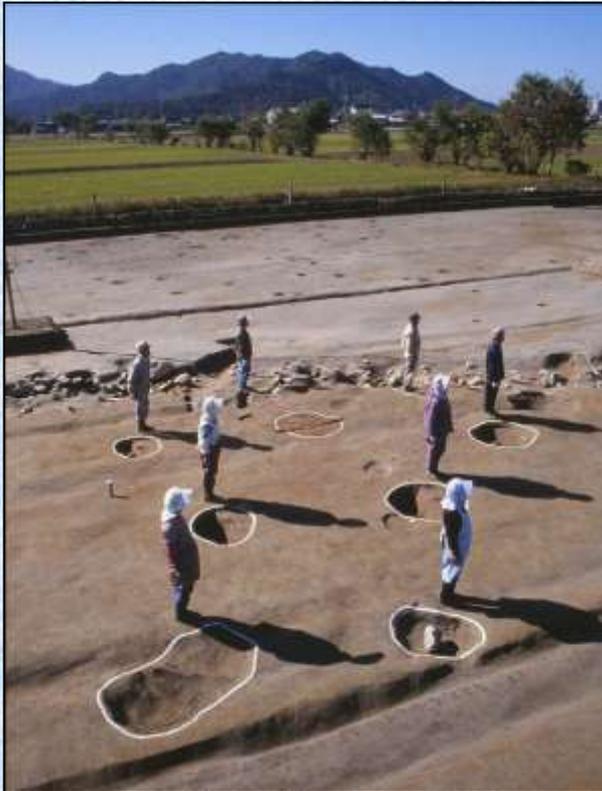
(出土品：市指定考古遺物)

所在地：東近江市神郷町・種町

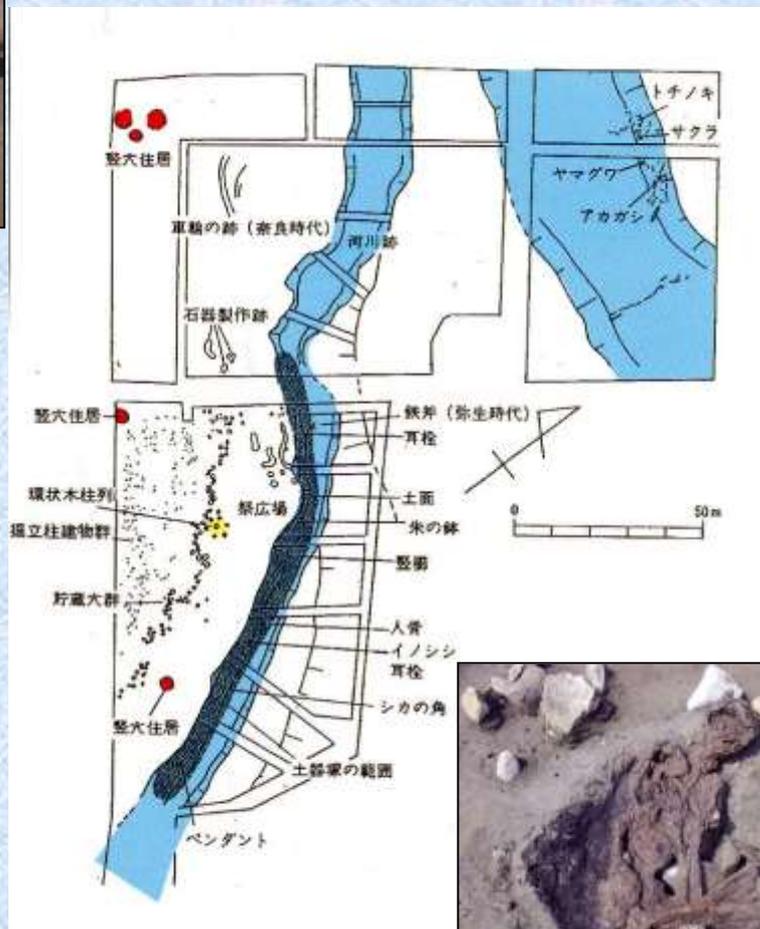
遺跡の概要

正楽寺遺跡は愛知川左岸の標高96m地帯に立地します。平成4～6年に実施した発掘調査で縄文時代後期前葉（約4,000年前）の集落跡が見つかり、西日本最大級の縄文遺跡として注目を集めました。

竪穴建物跡やドングリ貯蔵穴、サヌカイトを用いた石器製作場、環状木柱列が発見され、集落の岸辺に大量の土器や動物遺体が堆積した土器塚が130m以上確認され、さまざまな遺物が出土しました。



環状木柱列



航空写真

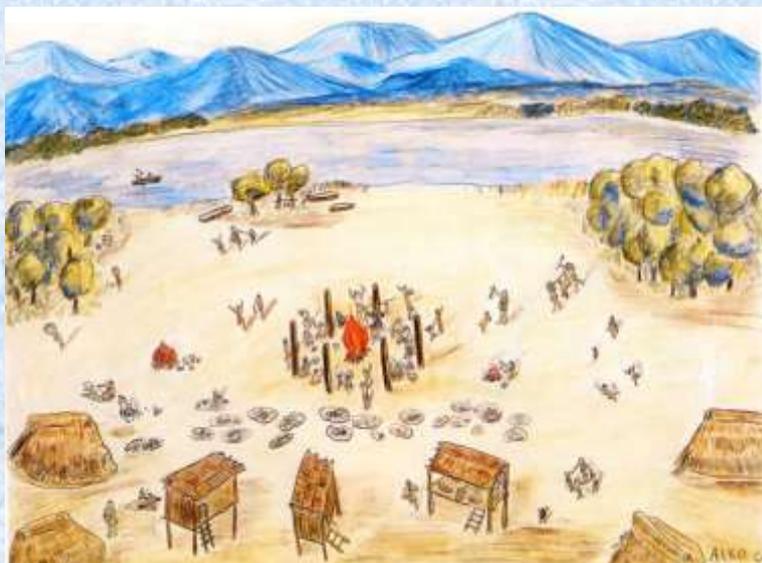


屈葬人骨（40歳前後の男性）

正楽寺遺跡の縄文ムラには、人々が集まってまつりをおこなった広場がありました。川沿いで見つかった環状木柱列には中央に大きなかがり火を焚いた跡が残されていました。

土面は実際にかぶることのできる大きさと、国内最古級のもので、この土面は環状木柱列の近くで出土しており、土面をかぶってマツリを行っていたのかも知れません。

出土した遺物には、関東・中部・北陸・四国・九州など各地の土器や石製品が含まれ、当時の人々の活発な交流がうかがえます。



正楽寺遺跡復元想像図



土面（右は複製品）



正楽寺遺跡出土縄文土器

★正楽寺遺跡の出土遺物は・・・

- 埋蔵文化財センターで展示・収蔵されています。
- 祭祀関連遺物は東近江市指定文化財（平成14年指定）になっています。



★正楽寺遺跡には・・・

所在地：東近江市神郷町・種町
 アクセス：JR琵琶湖線能登川駅から徒歩25分
 名神高速道路八日市ICより車で25分
 発掘調査地は現在工場が建っていますが、環状木柱列周辺は現地（地下）保存されています。



東近江市の遺跡シリーズ8「正楽寺遺跡」

編集・発行：東近江市教育委員会 埋蔵文化財センター

〒521-1225 滋賀県東近江市山路町 2225

TEL:0748-42-5011 IP:0505-801-5011 FAX:0748-42-5816

[平成23年3月発行]

このパンフレットは地域活性化交付金(住民生活に光をそそぐ交付金)を得て作成しました。